

PORT ISLAND ReBORN SYMPOSIUM 2024

ポートアイランド
リボーンシンポジウム2024

参加費
無料

日時

2024

3/4 MON

13:00-15:30 開場

第1部

ポートアイランド各エリアの課題と取り組みの方向性

取り組み報告

「リボーンプロジェクト展開のための考え方」藤村龍至

PIリボーンプロジェクトとは

ポートアイランドの可能性を再発見してアクティブ化する



ポートアイランド・リボーンプロジェクトとは

まちびらきから約40年が経過し、まちの成熟とともに賑わいの創出が課題となっているポートアイランドの活性化に向け、令和年度より「ポートアイランド・リボーンプロジェクト」として、まちの将来ビジョンの検討を進めています。

将来ビジョン検討の一環で、建築家・東京藝術大学准教授でポートアイランドの研究者でもある藤村龍至より、都市空間のコンセプトやそのイメージ等、都市がめざすべき空間像について提案を行いました。

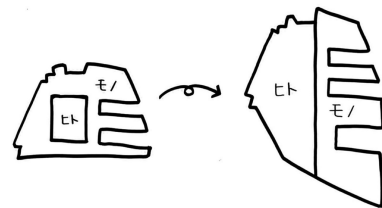
PIリボーン・シンポジウム

神戸市の検討内容及び藤村からの提案について広く市民や企業等の皆様に周知し、ポートアイランドのこれからのまちづくりを共に考えるきっかけとして開催

1.シンポジウムの概要

- (1)日時：令和5年3月13日(月)
- (2)場所：神戸国際会議場国際会議室
- (3)参加：会場・オンライン併用

会場参加78名・オンライン参加130名
計208名参加

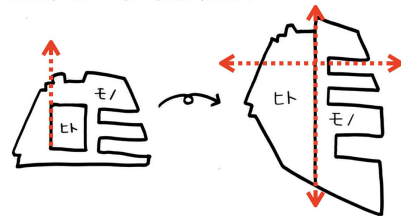


1970年代のイメージ
港湾機能に囲まれた都市機能

将来イメージ
西に都市機能+東に港湾機能

この50年で変化した文脈による不適合の例：交通網との関係

広域化した南北(三宮再整備+神戸空港線)+東西(大阪湾岸道路)軸の交通としてのPIへ

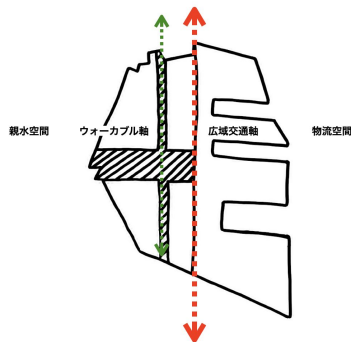


1970年代のイメージ
三宮との関係のみ

将来イメージ
南北：三宮再整備+神戸空港
東西：大阪湾岸道路

神戸の新しい「中央都市軸」のイメージ

北野とPIを結び「ウォークラブル軸」と新神戸と空港を結び「広域交通軸」

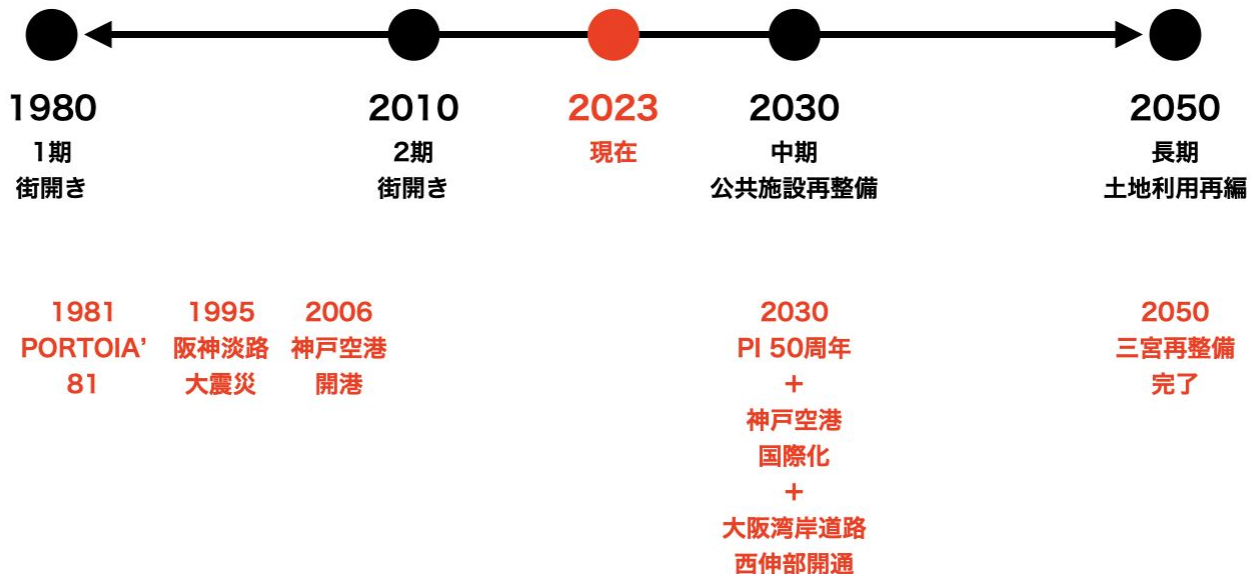




ポートアイランドの近未来を近過去から考える

- ・PIの基本設計時(1971)の議論の経緯をたどり、PIの都市空間の設計思想を明らかにする
- ・この50年で変化した周辺の文脈は何かを明らかにし、不適合を取り除く
- ・特に港湾の機能・産業の転換・国土全体からみたときの神戸市の立ち位置の変化に着目

近過去を振り返り、近未来を描く



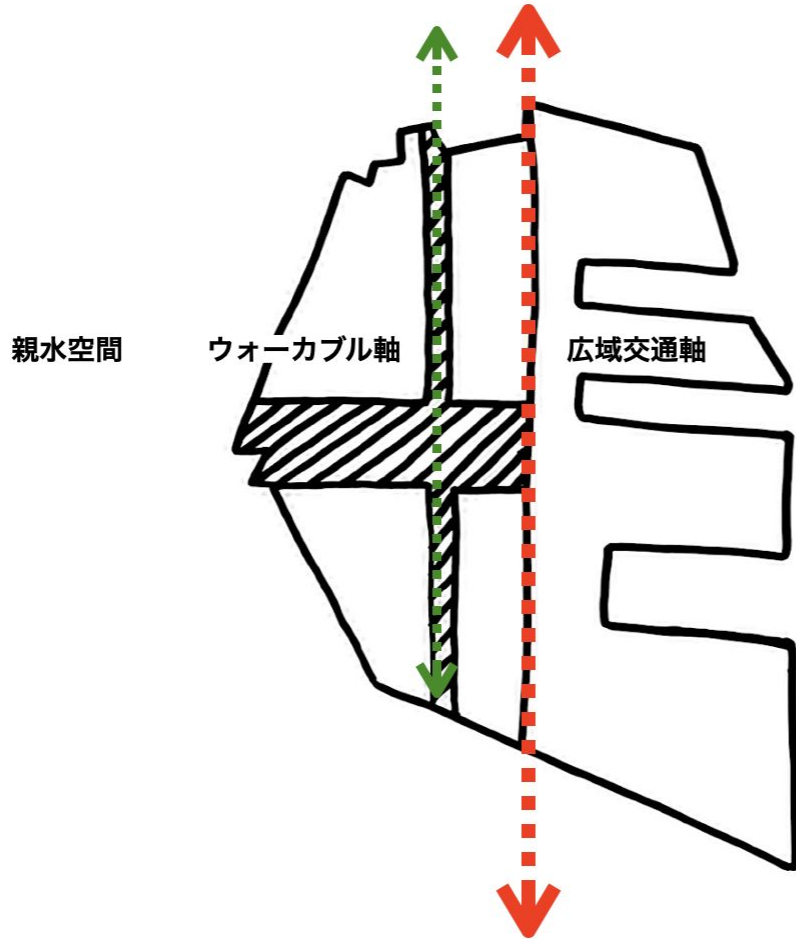
山、再び海へ

みどりに覆われた「新しいPI交流コア」のイメージ

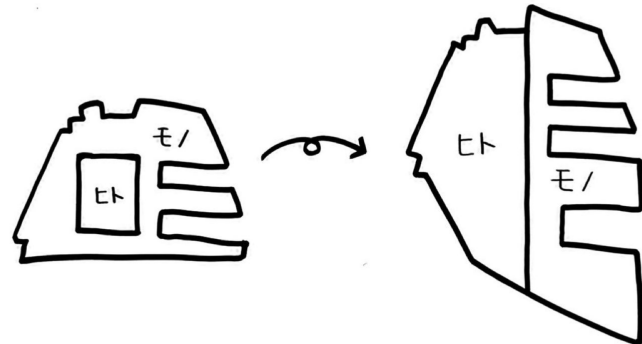


神戸の新しい「中央都市軸」のイメージ

北野とPIを結ぶ「ウォークラブル軸」と新神戸と空港を結ぶ「広域交通」軸



この50年で変化した文脈による不適合の例：島の土地利用
1970年代：港湾機能に囲まれた都市機能 将来：西に都市機能+東に港湾機能

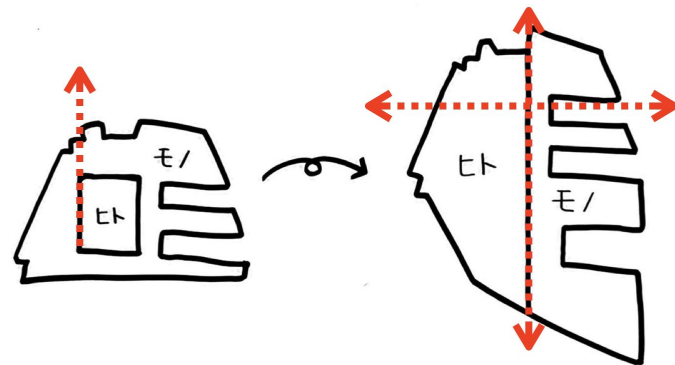


1970年代のイメージ
港湾機能に囲まれた都市機能

将来イメージ
西に都市機能+東に港湾機能

物流空間

この50年で変化した文脈による不適合の例：交通網との関係
広域化した南北(三宮再整備+神戸空港)軸+東西(大阪湾岸道路)軸の交差点としてのPIへ



1970年代のイメージ
三宮との関係のみ

将来イメージ
南北：三宮再整備+神戸空港
東西：大阪湾岸道路

R5年度の取り組み

13団体・160名以上との意見交換を実施



ヒアリングから見えるまちづくりのヒント

1)生活利便性の不足

- ・コンビニやファストフード、うどんくらいの軽さのものが欲しい
- ・キッチンカーはもう少し種類が欲しいが市場の原理、既存の環境との調整が難しい
- ・自転車での移動が便利になって欲しい

2)交流空間の不足

- ・島内のイベントがある時は懇親会もそのままできたらいいな、と感じる
- ・国際展示場で開催される学会は集合時間が朝早いので島内にもっと選択肢があれば宿泊したい
- ・隣に座った人が医療産業の人で交流できる、みたいな空間があれば

3)エリア価値の発信

- ・学生時代は最先端のイメージ。遊びに行くところでは住むところではない(震災で液状化し、孤立したことを知っている)
- ・4月まで医療産業都市があることを知らなかった
- ・来てみると自然が多くて面白いところ

4)高齢化対応



2024年2月10日

まち歩きスタディ

島内のパブリック・スペースを中心に有識者と共にまちを歩きながら、まちの課題や将来像の方向性を意見交換するワークショップ

参加約50名





2024年2月10日

まち歩きスタディ

島内のパブリック・スペースを中心に有識者と
共にまちを歩きながら、まちの課題や将来像
の方向性を意見交換するワークショップ

参加約50名





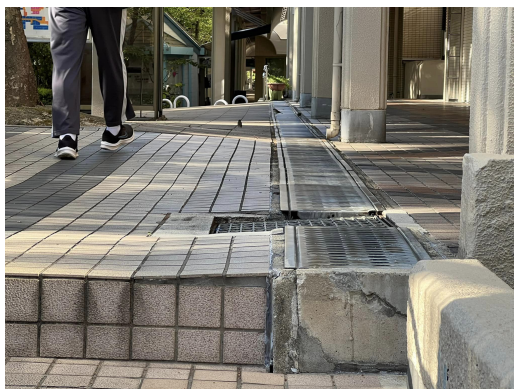
2023年9月3日

PI自治連合協議会にて
役員の皆さんと意見交換



2023年10月11日

PI自治連合協議会にて
「街歩き点検隊」に参加



2023年7月8日

南公園にて
ラジオ体操に参加



2024年2月8日

ランドスケープアーキテクト
平賀達也さんとまち歩き



ポートアイランド・リボーンプロジェクト

深度化の方向性

1_ストリートマネジメント

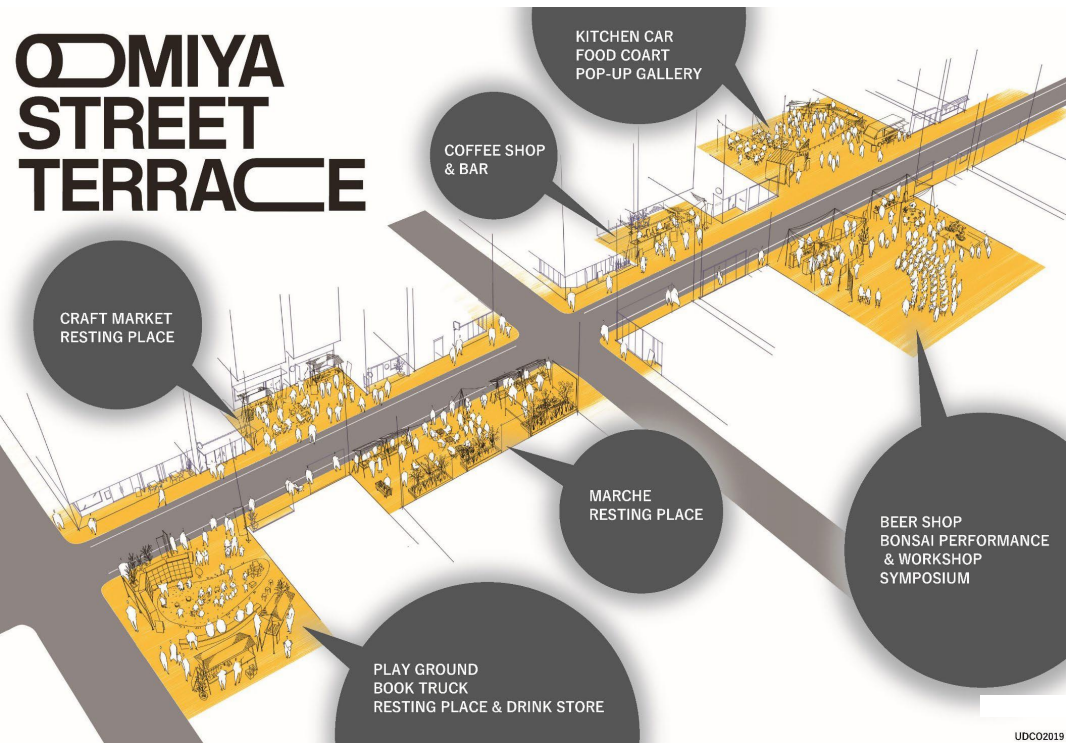
2_アクティブデザイン

3_自然を基盤とした解決策 (Nature-based Solutions: NbS)

1_ストリートマネジメント

都市利便増進協定に基づく街路・沿道の一体利活用

OMIYA STREET TERRACE



UDCO2019 |

OMIYA STREET TERRACE

都市再生推進法人UDCO

2017年設立

副センター長: 藤村龍至

常勤職員5名

年間予算: 3000-4000万円

(さいたま市による業務委託)

神戸市内における先行事例

平成31年3月22日 ハーバーランド地区都市利便増進協定
令和4年9月20日 神戸ウォーターフロント地区都市利便増進協定

購買施設、食事施設、駐車場、広場、通路
公共空間、駐車場、広告塔、看板、展望施設、夜間景観形成施設

1_ストリートマネジメント

都市利便増進協定に基づく街路・沿道の一体利活用

課題解決の例

1)ストリート・ランチ

- ・駅でランチの販売のコーディネート
- ・キッチンカーのコーディネート
- ・遊休化した企業所有の喫茶店・社食の設備を活用したシェアキッチン管理運営 など

2)ストリート・マーケット(交流機会の創出)

- ・エリアの課題を解決し価値を発信するマーケット
(固定メンバーで2ヶ月に一度・広域に誘致して半年に1度程度の頻度)
- ・企業大学間のイベントの企画 など

3)ストリート・プランツ(植栽の管理)

- ・緑化滞在空間の創出
- ・台風時等の対策 など

4)ストリート・モビリティ

- ・島内レンタサイクル等
- ・駐車場の管理
- ・移住推進情報の発信 など



2_アクティブデザイン



『ACTIVE DESIGN GUIDELINES』ニューヨーク都市計画局(2010)



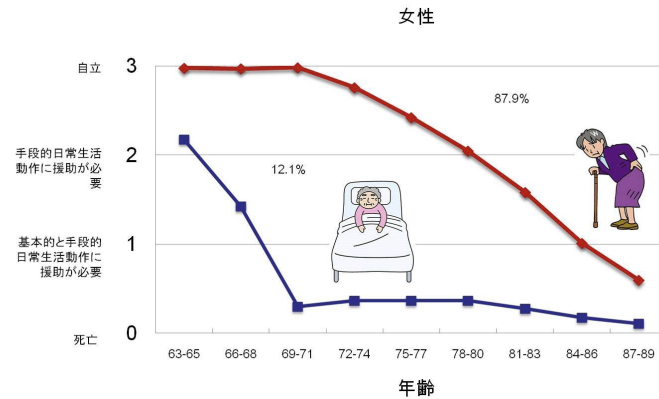
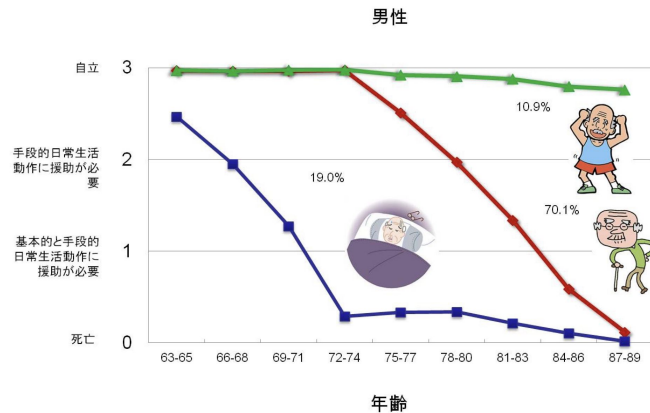
南町田グランベリーパーク

2_アクティブデザイン

高齢化・生産性の向上などの課題を公共空間の「アクティブ化」によって解決

日本老年学的評価研究(24市町村と436地域 65歳以上の高齢者76,035名を約3年間追跡)

- ・歩道が多い地域に住んでいる高齢者は**認知症リスク27%減少**
- ・介護認定されていない65歳以上の高齢者8904名のデータを用い地域ごとの傾斜角と住民の糖尿病リスク
坂の傾斜が1.48度上がるとコントロール不良の糖尿病(ヘモグロビンA1cが7.5%以上)**18%減少**
- ・運動グループ参加(月1回以上)が10%多い地域ではうつが男性で**11%、女性で4%低い**(Tsuji 2018)
市民参加が5%多い地域では高血圧の有病割合が男性で2%、女性で3%低い(Nakagomi 2019)
名古屋の2298名の母親 子育て支援拠点の多い地域では母親の産後うつが少ない(Miura 2019)



「自立度の変化パターン-全国高齢者20年の追跡調査(N=5715)」

出典:秋山弘子「長寿時代の科学と社会の構想『科学』」岩波書店2010

3_自然を基盤とした解決策 (Nature-based Solutions: NbS)

2050

みどりに覆われた「市民広場」周辺部のイメージ



3_自然を基盤とした解決策(Nature-based Solutions: NbS)

課題を施設やインフラの整備にだけ頼るよりも、自然に根ざした考え方で解いていく

例えば

PIの高齢化・防災・エネルギーなどの課題をグリーンを用いて解決する

- ・ハードな舗装を芝生化することで地表面の温度を下げる(市民広場・南公園(2期)・北公園・西緑地など)
- ・樹木とベンチの配置を再検討し、木陰の居場所をデザインすることで滞在空間を再構築する(緑道・中公園・南公園)
- ・ファッションタウンに流れるせせらぎを街中を冷やす触媒として再評価する

PIリボーン2024に向けて

(仮称)ストリートマネジмент・プロジェクト

都市利便増進協定に基づく街路・沿道の一体利活用

藤村龍至 (東京藝術大学・RFA)

区間C

区間B

区間A



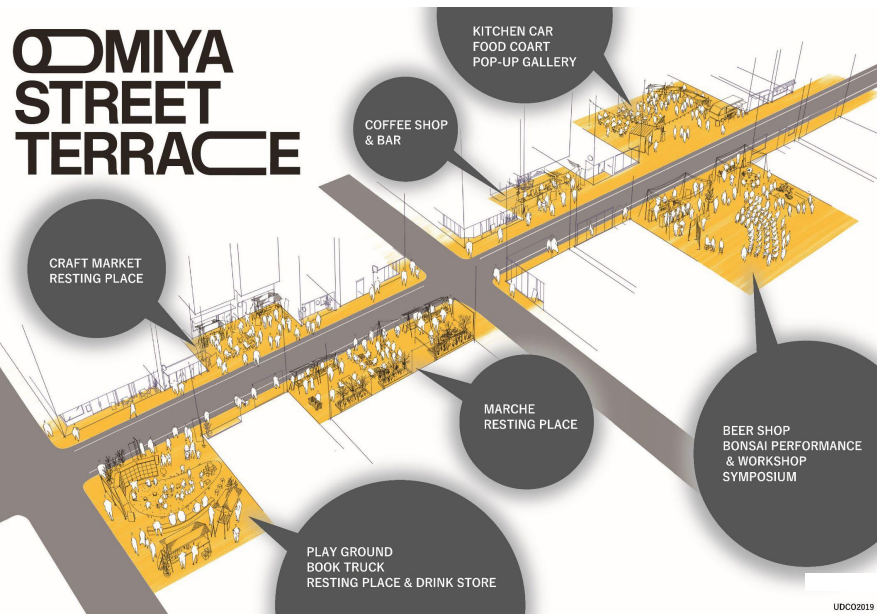
Google



ストリートマネジメントとは

都市利便増進協定に基づく街路・沿道の一体利活用

OMIYA STREET TERRACE



OMIYA STREET TERRACE

都市再生推進法人 UDCO・2017年設立・副センター長：藤村龍至・常勤職員 5名
年間予算：3000-4000万円(さいたま市による業務委託)

神戸市内における先行事例

平成31年3月22日 ハーバーランド地区都市利便増進協定

令和4年9月20日 神戸ウォーターフロント地区都市利便増進協定

1)ストリートランチ



ストリートマネジメントによる エリアの課題解決の例

1)ストリート・ランチ

- ・駅でランチの販売のコーディネート
- ・キッチンカーのコーディネート
- ・遊休化した企業所有の喫茶店・社食の設備を活用したシェアキッチン管理運営 など

2)ストリート・マーケット(交流機会の創出)

- ・エリアの課題を解決し価値を発信
(固定メンバーで2ヶ月に一度・広域に誘致。半年に1度程度)
- ・企業大学間の イベントの企画 など

2)ストリートマーケット



3)ストリート・プランツ(植栽の管理)

- ・緑化滞在空間の創出
- ・台風時等の対策 など

3)ストリート・プランツ



4)ストリート・モビリティ

- ・島内レンタサイクル等
- ・駐車場の管理
- ・移住推進情報の発信 など



1期北

1期南

2期

区間A

区間B

区間C

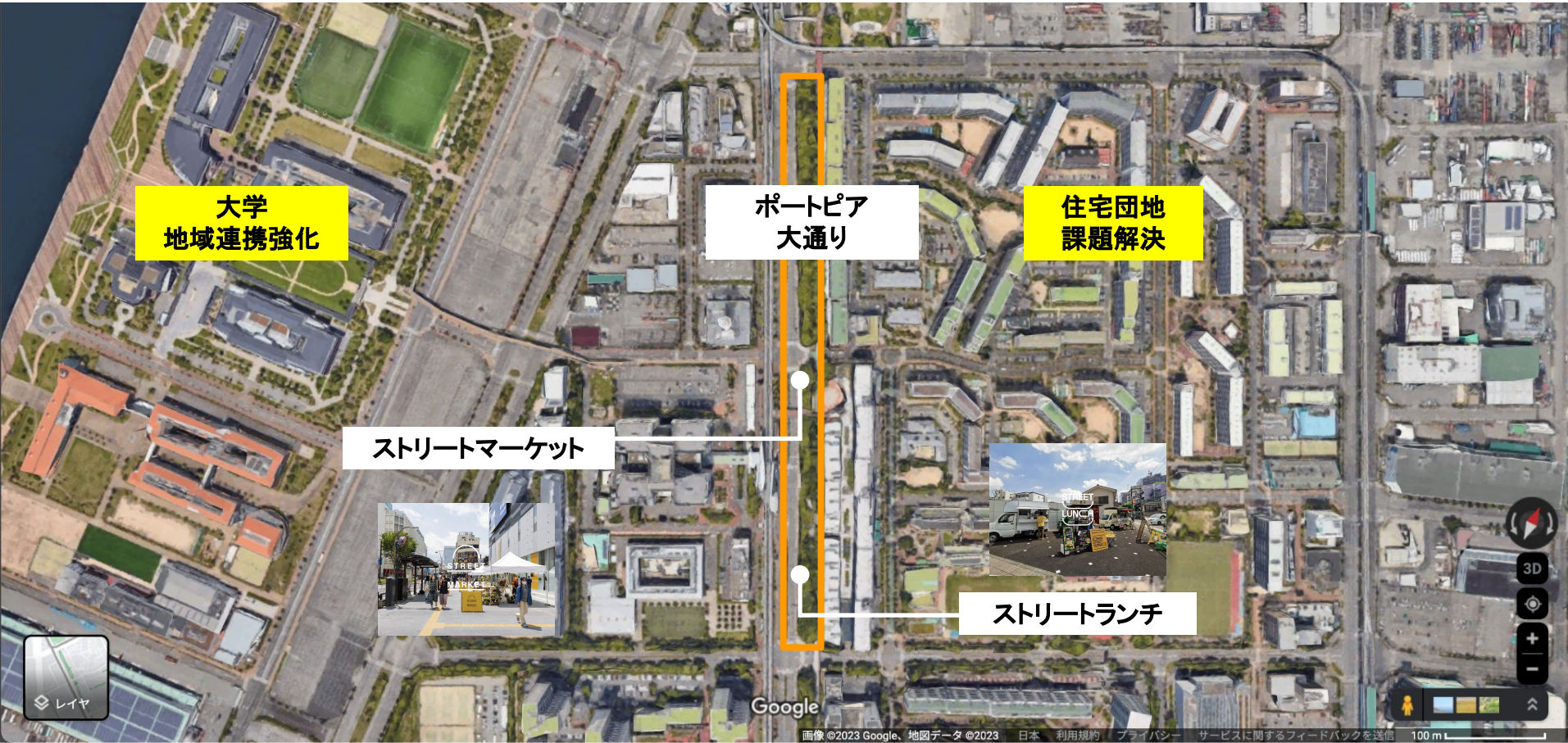


Google



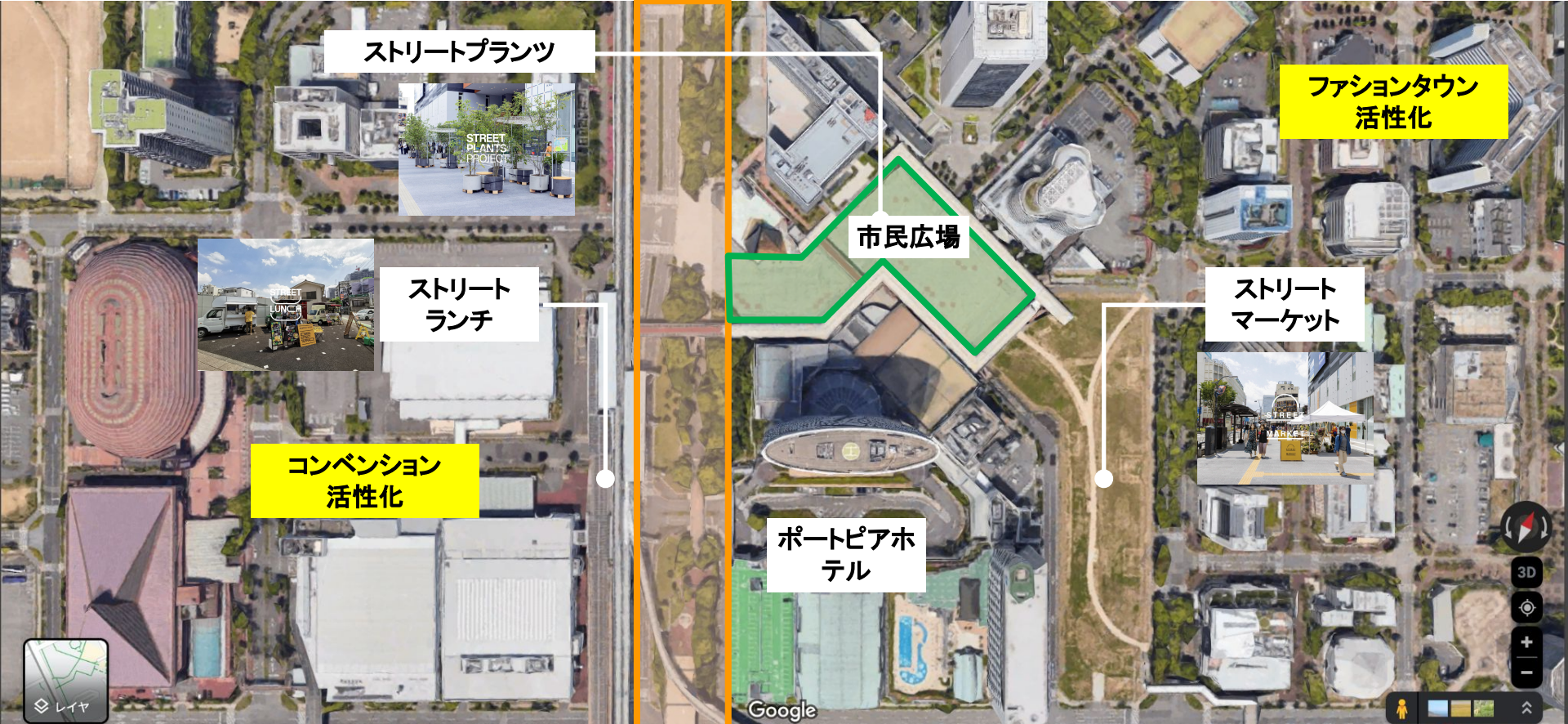
1期北エリア

ビジョン例「大学と協働して課題解決を図るコミュニティ・タウン」



1期南エリア

エリアビジョン例「コンベンションシティと一体化したクリエイティブ・タウン」



ストリートプランツ



ストリートランチ



コンベンション
活性化

市民広場



ポートピアホ
テル

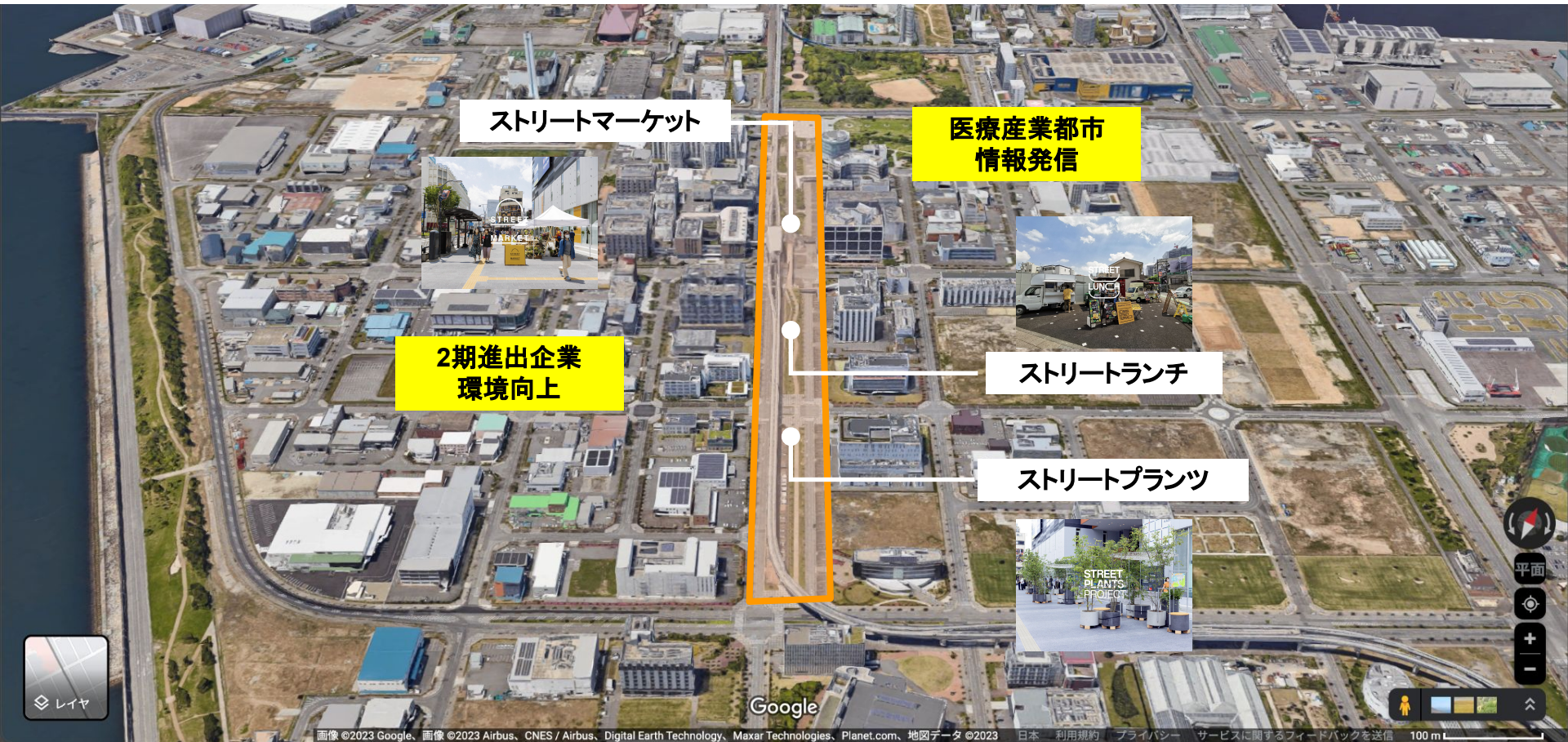
ファッションタウン
活性化

ストリート
マーケット



2期エリア

エリアビジョン例「ストリートをハブとした共創のコミュニティ」



ストリート実験事例「上野広小路ヒロバ化実験」(台東区)

2023年11月26日開催 主催: 上野まちづくり協議会・台東区共催 (実行委員長: 藤村龍至)



11/26
[日] SUN
12:30-16:30
※定休日(2023年11月17日)

上野広小路ヒロバ化実験は、中央通りの一部と袴腰広場を「社」上野公園と見なして、道路空間上の賑わい創出を目的とする。社からまちへ、まちから社へ歩いて回ることで、道路の一部を通行止めにして人のための空間として創出します。道端まで来て立ち寄りやベンチ・カーの活用、音楽演奏なども実施します。この機会を体験しにぜひのぞいてください。

主催: 上野まちづくり協議会 共催: 台東区
協力: 上野公園連立・上野中央会・協会の会合・上野文化センター・協会の会合・東京電機 東京都
NPO法人の社・LENO bridge 有識者会等 協賛: 協会の会合・東京電機大学・協会の会合・協会の会合
事務局: 1114-1 協会の会合 上野まちづくり協議会 (03-3820-0000)



実験前日

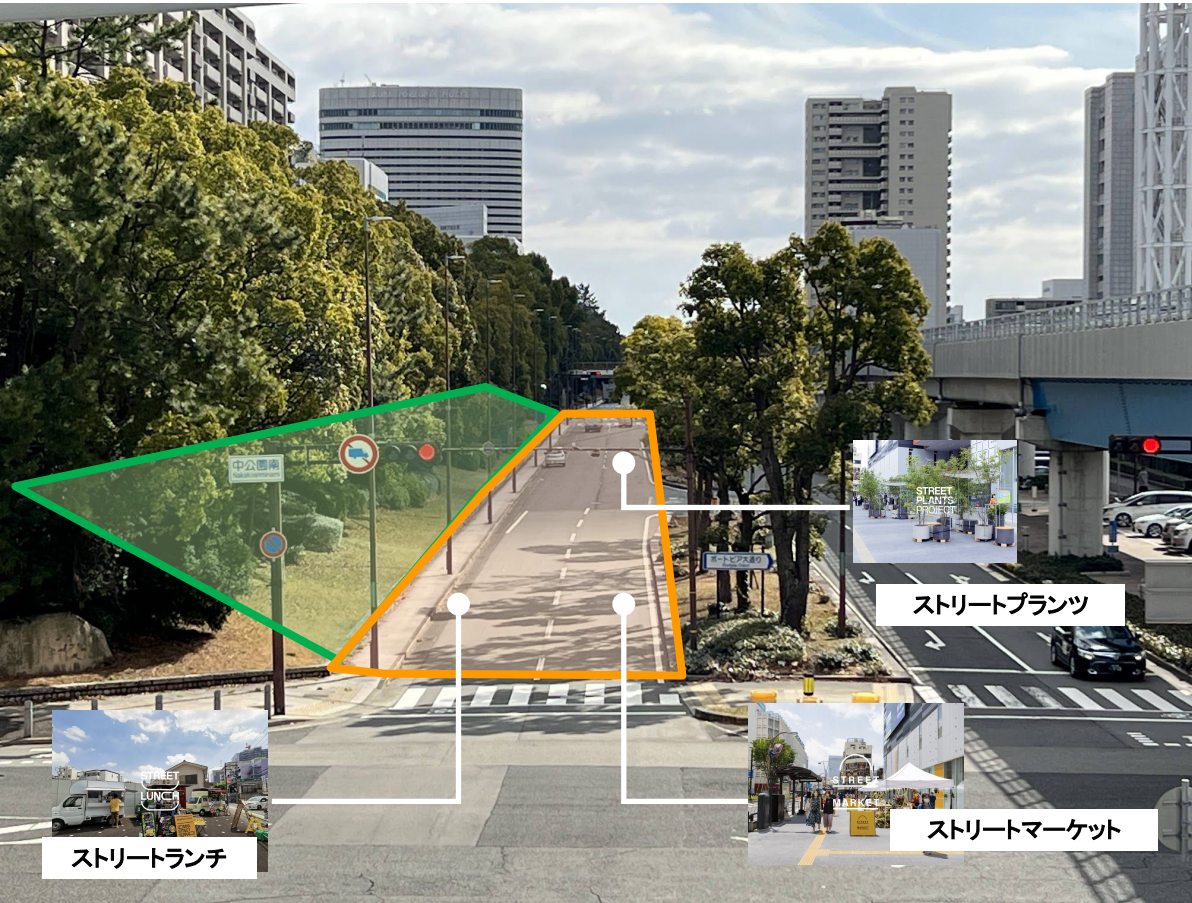


実験当日

実験B: 居たくなる空間の創出@袴腰広場
公園地占用許可(イベント等) 都市公園法および東京都条例
ストリートファニチャー(ベンチ・イス等)
情報発信・音楽演奏など

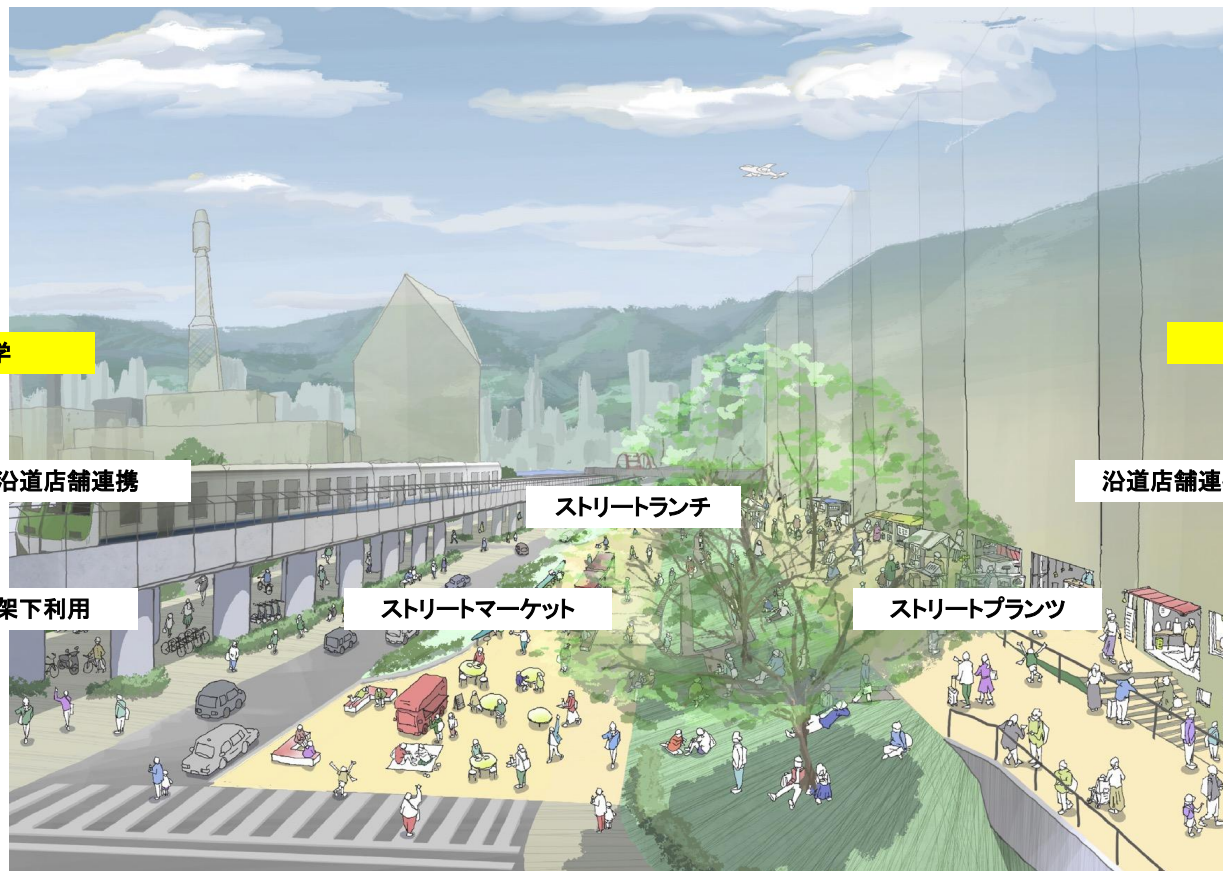
実験A: 歩きたくなる空間の創出@中央通り
道路使用許可 道路交通法
ストリートファニチャー(ベンチ・イス等)
飲食・物販店舗・音楽演奏など

ストリート社会実験イメージ 「(仮称)ポートアイランド大通りヒロバ化実験」



ストリート社会実験イメージ

「(仮称)ポートアイランド大通りヒロバ化実験」



大学

住民

沿道店舗連携

ストリートランチ

沿道店舗連携

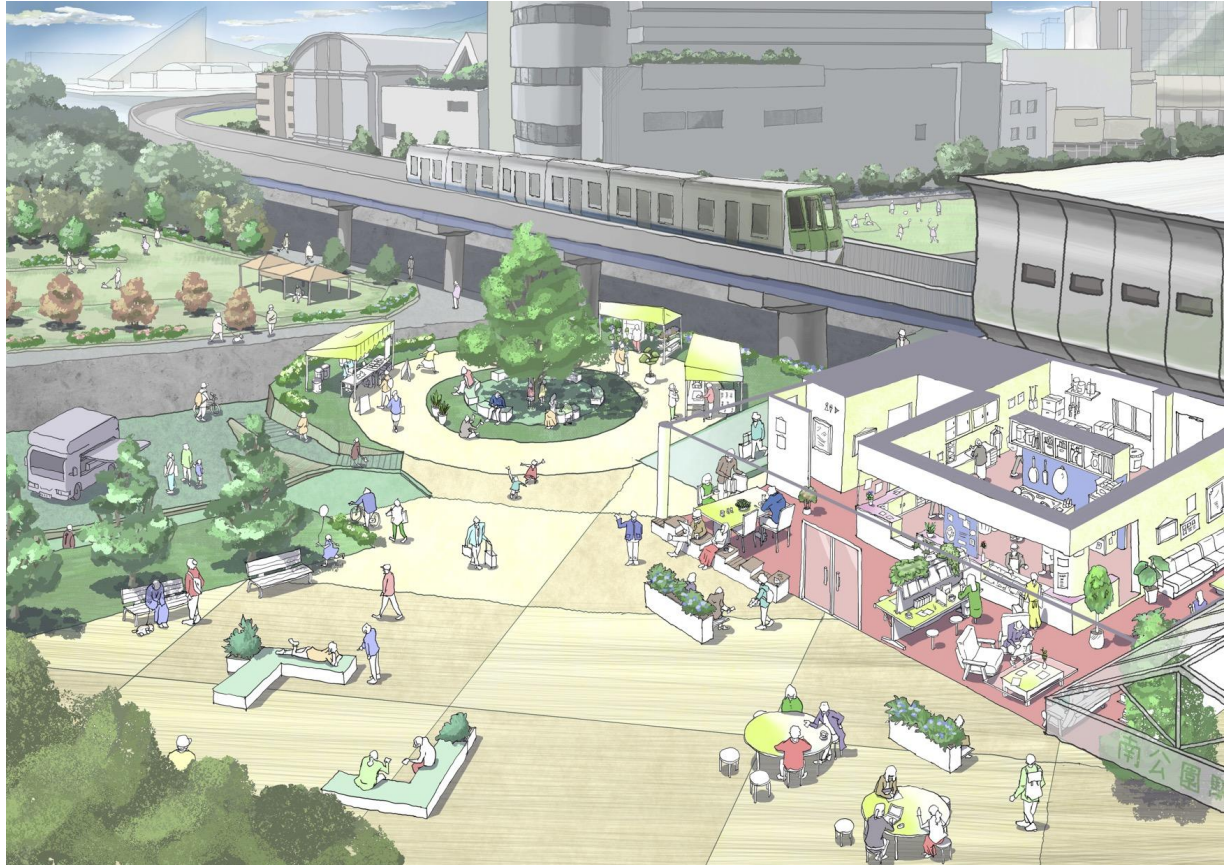
高架下利用

ストリートマーケット

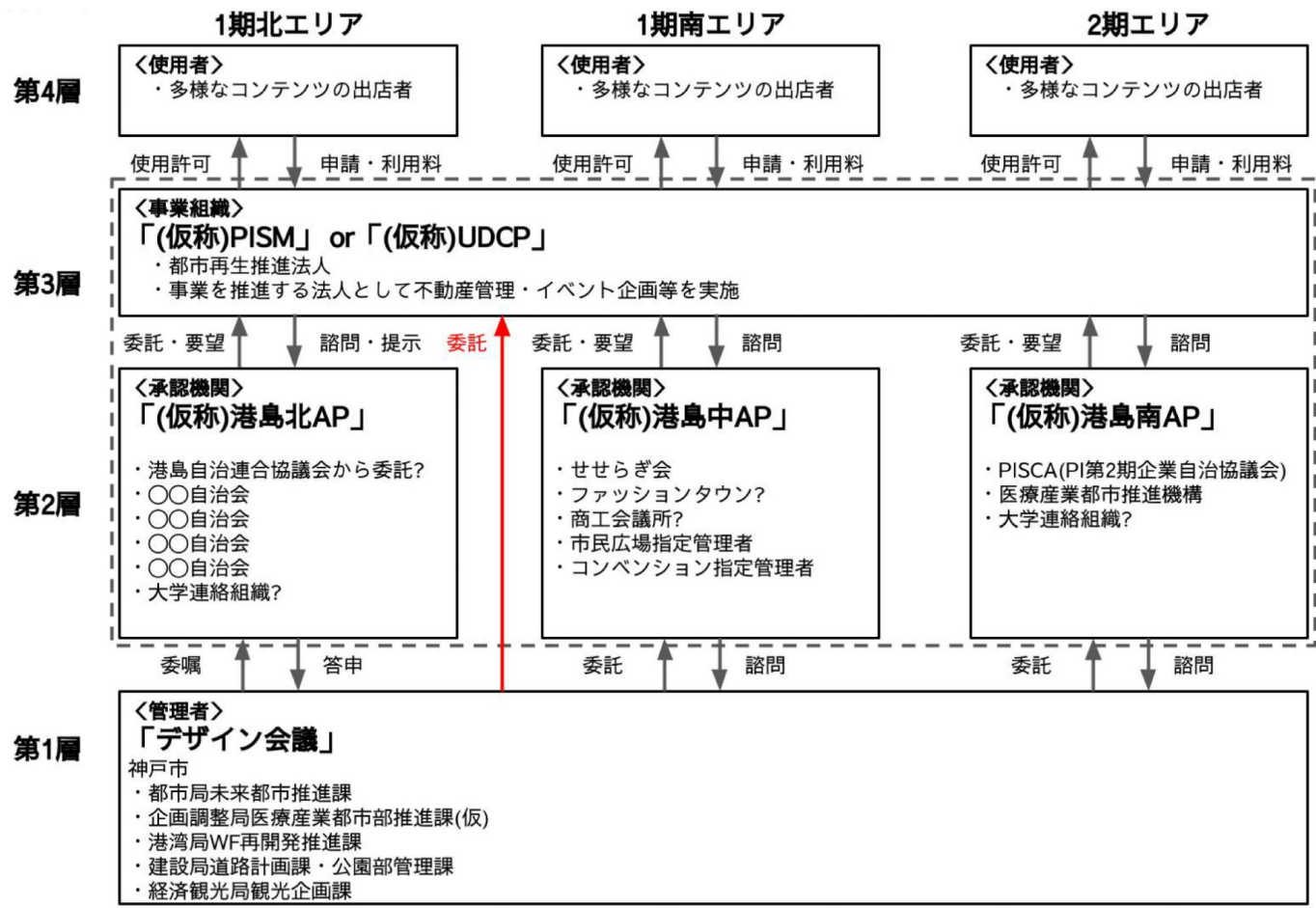
ストリートプランツ

ストリート社会実験イメージ

「(仮称)ストリートマネジメントのためのシェアキッチン」



エリアマネジメント体制イメージ



ポートアイランド・リボーンプロジェクト

深度化の方向性

1_ストリートマネジメント

2_アクティブデザイン

3_自然を基盤とした解決策 (Nature-based Solutions: NbS)

今後の展開(案)

短期

マネジメントシステムの確立

2023年度 意見交換をもとに **ストリート社会実験企画の立案** (@シンポジウム)

2024年度 社会実験をもとに「PIまちづくりデザイン市民提案」提出

2025年度 市民提案をもとに「PI公民連携基本計画(戦略)」策定・都市再生推進法人設立

中期(概ね2030年頃)

公共空間ネットワークの確立

大阪湾岸道路開通を踏まえ道路空間再配分「ストリートパーク・ネットワーク」
公園再整備「シーサイドパーク・ネットワーク」による新しい都市イメージの発信
公民連携による大型投資の実現

長期(概ね2050年頃)

質の高い民間投資を呼び込み新しいポートアイランドの姿を実現

愛という名の花を咲かせましょう
夢と名づける森を育てよう
時は過ぎ人はうつり時代は変わる
それでも都市(まち)は生きる

ゴダイゴ「ポートピア」(1980)

第1部

ポートアイランド各エリアの課題と取り組みの方向性

取り組み報告

「リボーンプロジェクト展開のための考え方」藤村龍至